

土浦市民憲章

昭和50年12月23日制定

- 1. 互いに信じ 助けあう
あたたかいところをそだてましょう
- 1. からだをきたえ 仕事にはげみ
あかるい家庭を きずきましょう
- 1. 自然を愛し 水とみどりの
きれいなまちを つくりましょう
- 1. 知性を高め 教養をつちかい
文化のみりを ひろげましょう
- 1. 伝統をふまえ 未来をみつめる
若い力を のぼしましょう

一中地区市民委員会



発行・編集者：一中地区市民委員会・文化広報部 発行日：平成27年3月15日(日)
 事務局：一中地区公民館内 TEL: 029-821-0104
 世帯数 9,005戸 人口 19,950人(平成27年1月1日現在住民基本台帳による)

二つのたまき



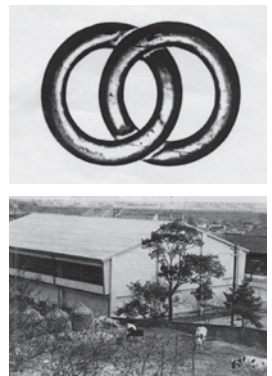
一中地区市民委員会
委員 宮越 雄一

土浦第二小学校の校章である二つのたまきは、創立当時、広く一般より公募して制定されたものである。まず、地域の代表者と学校職員で選定委員会を組織し、優秀作品として五つにしぼった中から、最優秀作品を選ぶことになったがなかなか決まらず、最終的に当時の市長さんに参考意見を求めたところ「二つのたまき」がよいということになったのである。

この校章には、土浦小学校と下高津小学校から来た児童が、いつまでも仲良く助けあっていくようにという教育的な願いも込められていたので委員一同も採用することに一致したそうである。

二つのたまきのよさは、和をつないでやわらかく、しかもどっしりと安定して隙のない自然体の姿にある。目ざす児童像とも重なっている。今、我が校では、体育館の改築工事が進められている。現在の体育館は昭和三十六年に建てられたものである。当時、できたての体育館を現市役所側のふじつか山から撮った写真がある。作物(落花生か)を積み上げたばっちと乳牛が草を食む牧歌的な風景が写し出されている。なつかしむとともに、新しい体育館の完成に思いを馳せる今日このごろである。

(筆者は土浦第二小学校長です)



昭和36年 体育館
牛もみられたのどかな風景

「佐野子町の河童伝説と
かつば祭り」

一中地区市民委員会
委員 安達 好一

昔お不動様の仏画を得意とする妙沢上人が、客僧として逗留していた時、佐野子を流れる桜川にいたずら好きの河童が住んでおりました。ある日の夕方、仕事帰りの若者が、泥で汚れた馬を桜川で洗っていると、馬が急に暴れだしたので、不思議に思い見回すと、水中から馬のしっぽをつかんで、川に引きずり込まれようとしている河童を見つけました。相撲の得意な若者は河童を生け捕り、村に連れ帰りました。村人達は日頃の騒ぎ出しました。そこに満蔵寺の妙沢和尚さんが現れ、「河童には、二度と悪さをしないように約束させるから、命は助けてやってもらえないだろうか」と話しました。村人たちは妙沢さんの頼みを聞き入れましたが、二度といたずらが出来ないよう河童の右の手を切り取ってから放してやりました。それからというもの、このあたりでは、川でおぼれる者は

市民委員会
専門部の活動

福祉部の活動

いなくなったそうです。現在では河童の手は、むやみに出すと大雨洪水になると伝えられ、大切に保存されています。これを機会に佐野子町では平成12年(平成22年)まで地区の三役として、10年間務めさせていたのだいた事に感謝の意をこめ、阿部守男、稲見武、坂本實、三氏がかつば堂を建立し、佐野子町の活性化を願い、河童の手のミイラと、河童の石像を町の守護神として引き継がれていくことを祈願して、河童の手を開帳し、毎年六月の第一土曜日に、佐野子のかつば祭りを行っています。
(筆者は佐野子町区長です。)

部長 加藤 千枝

① 一中地区市民委員会福祉部は二六年度も例年の活動状況に沿って事業を計画し活動している。

② 特別養護老人ホームでの傾聴ボランティア活動
③ 公民館祭りではスーパードール揃い。

④ 福祉施設の研修等の実施を計画している。

研修で得たものは地域で生かして行きたいと考えていたが地域が主体となった福祉活動としてこれだと！感じた事があった。

高齢者クラブの研修旅行に参加した折、あるグループに認知症を思わせる方がいたが同行した人たちが何かにつけて実に細かい気配りをしていました。バスの乗り降りや、ホテルで

は寝る場所まで環境の変化で迷わないようにごく自然に気配りをしサポートしていた。日頃からの地域の暖かい触れ合いを感じる事が出来た。身近な所から地域住民のネットワーク作りの重要さを改めて認識し地域福祉活動をして行きたいと思っ

みんなの広場

蓮根

田中一丁目 井上 寛江

以前住んでいた家の裏に母子寮があった。コの字型の中央に寮母さんが居り、戦争未亡人などの母子が住んでいた。その小学校低学年の女の子が塀の間から興味があるのか、よくこちらを覗いていた。遊びにおいでと呼んで、お名前は？と聞いたらKちゃんと言った。当時私は娘三歳息子一歳で家業のこともあり、土浦は初めての知らない土地で大変な時であり、娘と一緒に遊んでもらえたら願っても無いことであった。

スラリとしてフラフラとび抜けて上手で、娘はKちゃんの家へ行ったり来たり一緒に遊んで面倒を見てもらい、その内に仕事の手が空いたとお母さんも手伝いに来てくれ、息子の世話をたのむようになり、オムツを一年でとれるようにしてくれた。長じてKちゃんはうちの会社の事務員となり、同僚と結ばれ社内結婚をしたのである。相手の実家が蓮根農家なので、二人はその後蓮根に入りがなばっているという話を聞いた。亡夫の葬式には二人で来られ、新

盆には明日咲くという蓮のつぼみを持ってきてくれ、次の朝早く見事な紅の大輪の蓮の花が咲き、初めて見た私は感激をしてみました。

夏には氷詰めの新鮮な蓮根が届いた。土浦は蓮根日本一の産地、夫婦二人の写真にレシピア入りチラシも入っていた。お礼の電話をして「奥さんの内助の功も大切よ、がんばってね」と「私、いま幸せです」として六十五歳で子ども三人に孫六人と言った。でかしたKちゃん、私は心の底から嬉しかった。きっと賑やかな家族を願っていたのだろう。いま蓮根はいろいろと研究されており、四季を通じ料亭などへも出荷されているという。

蓮根は健康野菜、ビタミンCはイチゴに匹敵、カリウムはバナナ以上、一〇〇gで一日のビタミンを摂取とチラシにはあり、レシピアもさまざまに工夫され、昔とは違う。

今は若い人達に代を譲っていると、言うが、筑波おろしにどつぱり腰までつかり、蓮根を掘る姿が思い浮かんでくるのです。

「虫掛ランドゴルフ」会員募集中

虫掛 田中 久美子

「おはようございます。」第1第3土曜日の朝8時30分。虫掛中央公園に人が集まってきました。今日は2月20日、だいぶ寒くなってきましたが、今年最後なので、参加者は多かったです。虫掛ランドゴルフの会員の方達です。年令は50代〜80代。会長は吉田さん、副会長古城さん、会計田中さん、連絡役の片岡さんと中根さん。そして忘れてならないのが、元

民生委員で町内の世話役でもある大先輩の田中さんの存在です。いつもありがとうございます。町内の有志の方々、奥様方と一緒に楽しんでいきます。

始まったきっかけですが、以前はゲートボールを楽しんでいるお年寄りや、少年野球の子供達で賑わっていた公園でした。でもゲートボールは次に続く方がいなくなってしまうました。少年野球も少子化で虫掛だけではチームができず中央野球と一緒になくなってしまったので、公園で子供達の姿を見ることがなくなりました。それまではこの2つの会の方達によってきれいになっていた中央公園ですが、だんだん荒れてきてしまいました。土浦市で除草作業はしてくれませんが、なかなかゆき届くものではありません。

そこで公園をきれいにしようと発足したのがランドゴルフでした。ルールはゴルフと似ていますが、虫掛のランドコンデイションはゴルフ場と違ってデコボコで思った様に玉は転がらず、大きな雑草の切り株とか木の根、モグラの穴等アクシデントはいっぱいで、又そこがおもしろいところでもあります。思いがけずホールインワンがでると……おめでとうございます。1回につきティーツシュー1箱いた



だけです。これがけっこううれしいんです。

1チーム4人〜5人で、11時まで3回まわれます。私などなかなかうまくありませんが、皆さんの顔を見てお話できるのが楽しくて参加させていただいています。

1月は寒いのでお休みでした。皆さんでゆるく楽しく続けていきます。

明るい老後のために



生田町紫峰会
会長 八島 茂夫

最近の高齢者福祉の現場では、生活不活発病が問題となっている。体を動かさない状態が長く続くことが原因で心身の機能が低下していく病気のことである。仲間がいない、出かける場所がない、用事がないなどが最大の要因で、引きこもり状態に陥ってしまうのである。

平成十六年四月に発足した高齢者クラブ・生田町紫峰会は、高齢者の生活不活発病予防を旨として活発に活動している。現在、引きこもり対策として毎週五日のメニューを会員に提供し喜ばれている。市の許可を得て桜川河川敷に自前のグラウンドゴルフコースを整備したのが平成十六年のことである。現在会員のおよそ半数が参加、毎週月・水曜日にプレーを楽しんでいる。平成二十一年には、社会奉仕事業として一般市民にコースを解放することになり、現在では毎週火・金曜日に外部の愛好者と会員とが和気藹々と集まっている。またグラウンドゴルフをしない

会員のことと考え、昨年度からいきいき体操、輪投げ、うたごえ合唱、おしゃべりなどを楽しむ、非会員にも開かれた土曜サロンを開設し、週5日制が実現した。

この他、隔週・月例の活動として、市広報誌の配布作業、防犯パトロール、幹事会、紫峰会通信の発行などがある。また、研修旅行、出前講座、盆踊り講習会、うたごえ集会、カラオケ集会、茶話会、役員会、総会などを随時開催している。

平成二十五年度の活動実績は、健康増進事業が百三十回、参加者延数二千三百人、教養講座事業が八回、二百二十九人、社会奉仕事業が七十五回、五百五十四人、会議二十七回、百六十六人となっている。その他、県、市、社会福祉協議会、町内会ほか各種諸団体事業への団体参加が十八回、二百二十二となる。これらを集計すると、年間実に二百五十八回、三千二百一人に及ぶ。会員一人あたり平均年間四十五回、毎週ほぼ一回は会の行事に参加していることになる。紫峰会会員にとっては、生活不活発病を予防し、明るい老後生活の確かな支えとなっている。

このような活動を通じて作られた紫峰会の組織力・行動力は、八坂神社祭礼、町内夏祭り、



納涼大会、公民館まつりなど地域の行事への協働活動にも繋がっている。こうして生田町紫峰会が明るい地域社会作りにも多少なりとも貢献できればと願っているところである。

麦っこおはなし会

会長 柴沼 真実

私たち『麦っこおはなし会』は、毎月第3木曜日に一中地区公民館で絵本を楽しんでいるサークルです。

『麦っこおはなし会』と聞いて、何だか聞いた事があると思っ下さる方がいらしたら凄く嬉しいです。

一九九一年、自主保育サークル『麦っこ』をたちあげ、その活動の中で自分達の子供に絵本の読み聞かせをしていたのが始まりです。その後『麦っこおはなし会』として地域の子供達へと活動の場を広げていきました。

現在は、自分達大人同士で、クレヨンハウス（出版社）から毎月配本される絵本・てんやぐ（点字）絵本ふれあい文庫から送付される絵本・メンバー各自が持ち寄った、おすすめ絵本（土浦図書館児童書コーナーの季節の本棚をよく利用します。）をお互いに読み聞かせあつて楽しんでいきます。題名を読む読み手の声・リズム、絵本が開かれて読み聞かせが始まると、私たちは、その世界中へ中へどんどん入りこみ、絵をみて想像力を鍛えながら、次の頁、次の頁と心待ちするのです。

読み聞かせをしてもらって、本当に心地よくて深く心に効くんです。自分だけで手元で読んだ時とは違う発見をしたり思いを感じたり、読み

手によって、おはなしの雰囲気かわるのもおもしろいでしょう？

それにこの会には、盲導犬アイラがいます。アイラは、とても聞き上手。専用シートに横たわって、聞き耳をたて、時々気持ちよさそうに寝息をたて、リラックスマン。

さあ 次回は、どんな絵本に出会えるでしょうか……わくわくドキドキ楽しみ満々。



盲導犬「アイラ」



「老いの壁に挑む」

田中一丁目 齋藤 岑生

小生も昨年十一月に傘寿を迎え今後も更に年を重ねながら生きて行かなくてはなりません。

そのために出来るだけ体力、気力を衰えさせない努力はしております。早朝の約一時間の早歩き散歩、病弱の妻の為に主夫業も日課の一つです。食生活改善推進員としての活動、ボランティア活動を二件掛け持ち、趣味として月一度の料理教室、毎週のハーモニカ同好会にも参加するなど結構忙しいです。

昨年度の国民全体の医療費は三十、二兆円（国民一人当たり二三、七万円）この内高齢者の医療費は一一、七兆円（高齢者一人当たり七三、一万円）と年々高齢者への負担増が全体の医療費を押し上げて居ります。

小生も三ヶ所の医者に掛かって居りますが一応日常生活には全く支障なく前向きに過ごしております。

江戸時代の名君、上杉鷹山の言葉に「なせばなる 為（な）さねばならぬ なにごとも ならぬは人の 為さぬなりけり」自助努力しなさい……と云う教えであります。高齢者と云えども同じような事が言えると思えます。

高齢にかまけて、楽で贅沢な生き方をしていくと、生活習慣病になり人工透析するようになると、国費で年間五〇〇〜六〇〇万円と膨大な医療費が掛かり週三日、一回の透析所要時間が約四時間と本人も辛い思いを致します。

適度な運動、良い食生活、人と接し、趣味を持ち、ストレス解消する事が認知症の予防と正しい生活の基本で、その事を意識し実行する事が大切です。

中国武術気功友の会

私たち「中国武術気功友の会」は、主に一中地区公民館を会場にして、毎週土曜日の午前十時から十一時三十分までの一時間三十分間、練習をしています。

私たちの会は、発足してから二十余年がたち、その間にメンバーを変えながらも継続してきました。現在

八名の会員が練習しています。主な内容は、楊式太極拳八十八式と養生気功、動物気功等の五種類の気功と十三刀を練習しています。

講師は、趙玉祥先生です。先生は、中華人民共和国の出身で、幼い頃から中国武術を学ばれ、成人されてからは北京の大学で、中国武術の講師をされていたそうです。今から三十年位前に来日され、日中伝統武術協会を設立し、中国武術の普及に尽力されています。茨城県の各地に先生の教室が在り、毎日生徒さんに教えていらつしやいます。また、先生は山西形意拳の伝承者でもあります。

私たちの練習内容を紹介すると、まず、準備運動として、「気功」をやります。気の流れを全身に感じながら、呼吸法を大事にしてリラクゼーションながら動作をします。先生の動きを真似しながら行います。

次は、「楊式太極拳」です。気の流れの動作を確認してから音楽に合わせて行います。私は、まだ未熟なので、先生の動きに合わせるのが一杯ですが、長くやられている生徒さんは、とても上手にできます。

最後に、「十三刀」を練習したり、「太極拳」を反復練習して終わります。

少ない会員ですが、和気あいあいと練習しております。現在会員を募集しています。興味のあの方は、是非一度練習を見に来てください。



同好会だより

バルーンアート同好会

初めまして、一中地区公民館を拠点として活動しております「バルーンアート同好会」です。発足のきっかけは、平成23年の公民館講座でした。参加者の思いはそれぞれだったと思いますが、数回の講座を経て、バルーンの魅力を知り、もっと学びたい、続けたい、極めたい、などの受講者たちの思いから、平成24年、講師の長塚寛住先生に引き続き講師をお願いしてスタートしました。現在は、メンバーのみでの活動をしております。

バルーンは、学べば学ぶほど、奥の深さ、複雑さ、そして斬新さにびっくり、メンバー全員がその魅力にすっかり虜になってしまいました。発足当初、メンバーの中には、風船が大好きなのに「バルーン」と割れるのが苦手で、自然に顔を背けながら作っている者や、講座を受講された奥様と共にメンバーとなり、毎回熱心に活動している者、次々と新作を勉強し、メンバー全員ができるようになるまで、根気よく知識、技術を指導してくれる者、いつも笑顔でさりげない気配りをしてくれる者など、良い意味で、とても個性の豊かな人たちの集まりだと思っています。

現在は定期的に、毎月第2日曜日、午前10時から12時まで、一中地区公民館で、勉強会をしております。

昨年、新メンバーを数名迎え、10数名の在籍ですが、無理なく、楽し

く、をモットーに活動しております。ほとんど毎回、新作に取り組み、教え合いながら和気あいあいと、楽しい2時間を過ごしています。もし興味がある、作ってみたい(体験してみたい)など、ご希望をお持ちの方がいらつしやいましたら、ぜひおいでください。大歓迎です。

現在年間の主な活動として、一中地区公民館まつりへの参加(作品展示)、現在は皆さんのご意見を聞く機会も取れませんので、公民館にご意見をいただけましたら、ありがたいです。また、県南生涯学習センターからの要請で、土浦マラソン、きららまつり、まちなか元氣市など市内の活動はもちろんのこと、阿見町予科練平和記念館、牛久市、石岡市と地域、幅も広がり、楽しくお手伝いをさせていただいております。

活動中、どこかでお会いしましたら、どうぞ、お声をかけてください。ね。



同好会だより

土浦蕎麦同好会

会長 三島 誠

一中地区公民館にて、手打ちそば同好会を立ち上げてから約十三年経

ちます。

会員数約二十名の会合は、月1回基本的には、第2日曜日に、九時から始めています。場所の都合上、余儀なく変更することもあります。

会としての活動は、三年前に亀城に寄稿してからあまり変わっていません。

そばに対しての考え方は各人各様で、同じでなくいろいろあります。それでも、そばを手打ちで、美味しく食べたい、そして、喜んで食べていただきたいと思っっていることは、変わらないと考えています。

そばの味を決めるのは、いろいろな条件が重なって決まると思っております。そば粉・つなぎ・水・そば打ち技術・打つ時の環境(天候等)・打つたそばの保管・茹で方等その他にもいろいろあると考えています。

そのため、そばは、打つ度に常に違い、同じことはありません。

手打ちで打つたそばは、美味しいと思っておりますが、より美味しくするには、そば打ち技術を高めていくことが必要と考えています。

そば打ちの大きな流れは変わらないうですが、細かくみると個人差があり、個人の得手不得手があり、少しづつ違いが出てきます。技術向上の一つとして、次のことを行っています。全国麺類文化地域間交流推進協議会実施の素人そば打ち段位認定制度があります。その段位取得の競技会があり、その段位にふさわしければ認定され合格します。合格するための技術の習得の研鑽努力が、技術の進歩に大きく寄与すると思っております。

会は、月一回の集まりです。全員が自分で打つ量を決めて、技術習得を目指してそば打ちをします。この時に、有段者が段位を目指す人へもそうでない人へも、そば打ちの仕方をお教えています。

会の理念として、技術の前に美味しく食べられるように愛情をこめて打つことを掲げています。

昼は会員が打ったそばを会員が考えた献立で楽しく食べています。

一中地区公民館で年一回開催されます公民館祭り、会員の打ったそばを来場者に食べていただいています。十一月の寒い時期ですので、温かいかけ汁そばにしています。どうぞ、ご賞味ください。

同好会だより ハートフル同好会「ハートフル」

講師 久賀谷 真紀子

ハートフル同好会「ハートフル21」は、平成十三年一中公民館講座終了後、同好会として結成されました。公民館講座として、ハートフルを取り上げたのは、初めてだったそうです。ハートフルは、若い人たちにはあまり親しみのない楽器ですが、昭和三十年頃までは、小学校で習う楽器の一つでもあり、年配の方々とっては、昔自己流で吹いてみたこともある、なつかしい楽器の一つでもあります。ハートフルの音色は、どこかふるさとを思い出させるような心とむやましい音が特徴です。私たちの同好会では、毎年新しい曲を四〜五曲練習しています。その中には、難しい曲もあります。

が、先生に一つ一つ指導していただくことで、難しい曲も仕上がりが、その曲を毎年十一月の公民館まつりで、発表しています。同好会の仲間と一つの目標に向かって努力し、協力し合うことは、人生において、かけがえのない絆をつくることにもつながっています。また、毎年四月にはバスに乗って、お花見演奏へ出かけ、満開の桜の下で、仲間とハートフルを演奏し楽しく語り合うことも、同好会の年間行事の一つです。そして、毎年少しずつ増えてきたレパートリーの曲を老人介護施設でボランティア演奏することも、同好会メンバーの励みとなつていきます。ハートフルの音色を通して、人々と交流し、笑顔の毎日を過ごしていくことをこれからも心がけていきたいと思っています。



同好会だより 気軽に着物を

会長 小野寺 恵美子

「気軽に着物を」の同好会は平成二十四年六月に「講座」から「同好会」になりました。やさしく、きびしい先生のおかげで一年半続けています。半世紀をすぎたお姉さん達が日本人でありながら一人を着ることが

出来なかつた「着物」を、今は一人で着て食事、クラス会などに堂々と出かけられるまでに成長しました。

続けられたのはみんなが着物が好きだから、夢中になれるから。着物の話しになると笑顔になり心がルンルンして少女のような心になり話しが止まらなくなります。



趣味と実益をかねた「着付け、着方」によって他の人の二倍も人生を楽しんでいるような気がします。活動は月二回。昨年は会員もふえて、年末には先生といっしょにランチに行きました。

どうですか「貴方」。きものに興味ある方きものを持つている人いない人どなたでも、いっしょにきものを着てみませんか。今後のポケ防止体力づくりを考えている方も、ぜひご一緒にどうですか。連絡お待ちしております。

同好会だより パステル画「彩恋人」

会長 上野 房江

平成十四年パステル画講座に続き同好会となり平塚正義先生に、御指導を頂いています。同好会名は、「彩」の文字を入れる事でしたので、恋人を加え彩恋人

サイレントと読みます。

静かなイメージですが、十三年経ち今では絵とお喋りが上達しました。

先生は、ひとりひとりの作品を回り、意見を下さいます。二週目になると、微笑みながら、「みんな返事は良いのだが……」と、再度アドバイスを頂いています。

個性を大切に生かして下さいますので、同じ静物画を描いても、色彩や表現、構図等、誰の作品か一目瞭然です。これぞ芸術だそうです。

写生会や展覧会への出展、そして新年会なども行っています。

静物画は、先生が海外で購入された品物やアンティーク、珍しい植物や、季節の野菜、果物など、画材が豊富です。

第二、第四土曜日の十時〜十二時迄の二時間は、好きな絵に熱中し、気立ての良い仲間と贅沢な時間を過ごしています。

病氣療養の為に休んでいた時、同好会の方に励まされ、早目の復帰。絵は、手先を動かすので、麻痺で力が弱かった指のリハビリに、効果がありました。

美術鑑賞や、絵に興味のある方、初めての方など、パステルは、手軽に始められます。ご一緒にいかがですか？

見学もお待ちしています。



同好会だより 社交ダンススローズ会

会長 木川 要

スロー、スロー、クイック、クイック、スローウ。軽快な音楽のリズムに合わせてステップを踏む、一歩部屋の中に入ると皆さん年齢のわりに華やかな服装をし背筋をピンと伸ばしての、リズムカルな動き、このようなことの積み重ねにより、みんな実年齢より、かなり若く見えると言われるのか？

これがダンスの醍醐味であろうとおもわれます。

遅れましたが、皆様、新年おめでとう御座います、今年も宜しくお願ひ申し上げます。スローズ会も現在会員23名で、毎週水曜日午後1時より2時間のレッスンをしております。増田先生の熱心な指導で大事なポイントをじっくり繰り返し学びさらに、リズム感を身につけるための、音楽に合わせた自由なステップなどを織り交ぜながら、あつという間に2時間の時間が過ぎていく、いろんな事を忘れてレッスンに集中するひと時。

人生には、いろんな事もありストレスもあると思われるが、そんなことを忘れさせる2時間、多くの人の出会いがあり、語らいの場があるのもサークル活動ではないでしょうか。私はこれが元気の源であり、若さを保つ秘訣だと思っております。そうは言っても、誰もが間違いない年を積み重ねていく、私たちのスローズ会もそのとおりであり、これ

は何といっても致し方ない事実であります。したがって会の運営には年齢に合わせるように内容に楽しみごとを織り交ぜながら組み立てております。一例を挙げますと、年数回のホームパーティーや食事会、更には一泊の旅行パーティーなど、ダンスの技術面だけでなく、楽しみごとを織り交ぜた内容にシフトしながら誰かが喜んで参加できるような、サークルになるよう努力しておりますので、もし皆様ダンスに興味がありましたら、是非一度見に来て下さい、お待ちしております。



ありがとう 未来にはばたく子ども達

一中区区チャレンジクラブ
指導員 緑川 英男

二月一四日(土)に行われました第一〇回「太巻き寿司作りと閉講式」で今年度のチャレンジクラブも終了致しました。

- ①いつも元気にあいさつをする子ども
 - ②どんなときにも、友達を大切にすることを覚えている子ども
 - ③どんなことにも、思い切って挑戦する子ども
- これらを目標に活動してきましたが、どれだけ達成できたでしょうか。土浦小学校と土浦第二小学校の子を混合し、四年生から六年生を適度に分散させ、男女比も考慮して班を

編成し活動してきました。遠慮がちな四年生、最高学年らしく常に意欲的で、時には代表として堂々と謝辞を述べてくれた六年生。学年の違いもありますが、性格も大きく影響していたようです。

しかし、これらの差異すべてを乗り越えて、最近ではめっきり少なくなった異年齢集団の活動は、子ども達一人一人に何かしら学ぶものがあつたろうと確信します。これらの経験をもとにして、新たな場面で更に伸びていかれますことを祈念します。

青少年育成部の皆様には大変お世話になりました。元気はつらつで、何事にも興味津々の子ども達は行動的で、それを見守り、時には叱咤し、本来の活動に修正する支援は、さぞかし精神的にも負担をおかけしたものと 생각합니다。お陰様で子ども達は怪我もなく、全ての行動を全うすることができました。機会があれば今後もお手伝いいただければ嬉しいです。交代される場合は、活動の楽しさを次の方に引き継ぎ願います。初めて指導員としてチャレンジクラブに関わった私も、当初はいろいろ思うこともありましたが、回を重ねるにつれ、子ども達がいとおしくなり、今は感謝の気持ちでいっぱいです。



桜町二丁目さくら俳句会 新年初句会 作品抄

初詣恙なき日を祈るのみ

荒木小夜子

初句会誰もが狙う天景賞

田口よし子

年女過ぎし日偲びて初詣

深谷 由子

初夢の少年少女は君と僕

矢野惣四郎

日はのぼる雪吊り松に雪もなく

矢野 澄枝

鰐口の緒も新しや初詣

若松 明子

蓮舟の路肩の路肩に乾く浦しづか

藤川 祐子

編集後記

「亀城」二十八号ができました。ありがとうございました。お届けいたします。寄稿頂きました市民委員会の方々や、みんなの広場、専門部同好会からの活動状況など充実した内容となりました。

ご寄稿いただきました皆様方には編集委員一同より感謝申し上げます。

(今回の編集に携わった方々)

- 大槻 正義 桜井 昌子
- 新井 幸男 岡部 恒文
- 犬山 京子 齋藤 岑生
- 進土 武之 田中久美子
- 小野村一博